

# みんなの未来のために 始めていること・進めること

「エコな生活を」「二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を減らそう」という言葉を最近良く聞きますが、一体それはどんなことなのでしょう？

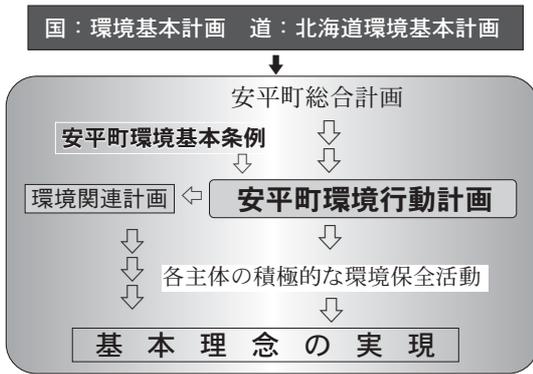
その説明は簡単に「地球の温暖化防止」としておいて町が始めたことや考えていることをご紹介します。

家庭では、レジ袋削減のためのマイバック、水筒のマイボトル化、エコカー補助金や減税で燃費や環境に良い車輛への乗換えなど、既に実践されていることも多いと思います。

環境について良いことはなにかと考えると難しく感じることも、「家計に対して良い事」から始めれば以外に取組めることであつたり「みんなが植樹」する方法などもある奥の深いお話しです。

国や町では未来のために今できることを始めています。

そんな取組みの過程をご紹介します。そんなさんと一緒に環境について考えてみたいと思います。



## ①整理をする。取組む。

左の図は、国や北海道の計画と町の計画や条例等で構成される環境に取組む全体の流れを示したものです。

しかし現実的には「どのようになら取組む」といったことはなかなか読み取ることができません。

そこで町では、具体的に目標値や方法など示す「安平町環境行動計画」の作成を進めており、まもなく素案が完成する予定です。

## ②町が既に取組んでいること

平成20年4月に「地球温暖化対策実行計画」を策定し、町の事務事業に伴って排出されるCO<sub>2</sub>を平成18年対比6%削減を目指す取組みを行っています。

以前より経費節減のために始めていた「節電」や「節水」に加え、ウォームビズや「エコ」とつく運転や活動の成果を燃料などの消費量の数字を基に結果を出し、更に効果を高めています。

その他の取組みでは、公用車の更新時にハイブリット車などの低燃費車の購入検討や無駄の無い利用を併せて呼びかけています。

新設の公共施設の中には国の補助制度を活用してソーラーパネルを設置した施設や計画の中のものもあります。



認定はやくきた子ども園に設置されたソーラーパネル



「森林教室」での植樹

植樹の取組みも環境貢献事業としての一例です。

ほくでんグループが町有林に10万本のカラマツの植樹を行っている「あびらエネモの森」事業や学校のドンダグリの子孫を残す会主催のミズナラの苗を植樹する「森林教室」など、企業や団体の協力を得て取組んでいることもありま

## 取組みの視点

### 使用量の削減

車や冷暖房器具など、北海道では石油等の化石燃料への依存度が高いため、節約の取組みや工夫によっては大きな効果を生むと考えます。

### 自然エネルギーの利用

太陽光発電システムは、太陽の光を直接電気エネルギーに変換するため、発電時に地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）をほとんど排出しない、クリーンなエネルギーとして注目されています。

### 森林づくり（緑を増やす）

地球温暖化の原因となっているCO<sub>2</sub>の大きな吸収源として、森林が注目されています。

森林の木々は大気中のCO<sub>2</sub>を吸収し、炭素として固定します。それらは木造住宅や木製品になっても、炭素を長年にわたって木の中に蓄えます。

林業の低迷は、日本の森林荒廃を進めています。私たち